

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は『飢餓を終わらせ、持続可能な農業を促進する』。

農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会代表

加藤重子さん



イタリア・ローマにある世界食糧農業

機関（FAO）の本部で、四月に世界農業遺産の認定式が開催されました。新たに認定された世界十地域などから三百二十人ほどが参加。宮城県の大崎地域も認定されたため、応援団の一人として参加しました。会場では農業関係の写真に書かれていた「Farmers : the Earth's artists（農民は大地の芸術家）」という言葉が印象に残りました。



は堰、隧道などを造り、工夫と苦勞をして水を確保したそうです。ササニシキやひとめぼれ発祥の地で、今では有数の米どころですが、こうした豊かな大崎耕土は、先人が数百年かけて築き上げてきたのです。

農地はもとより、食文化、芸能、持続可能な水田を支える水管理システムなど、農業遺産関連の

## 農民は大地の芸術家

私は宮城県加美町の薬菜山の麓で、米や野菜を作りながら農家民宿を営んでいます。また二十四年前、県内で最初にできた農産物の直売所を運営する「農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会」の代表理事組合長を務めています。

世界農業遺産の申請前に土地改良の専門家の話を聞きました。大崎地域は雨が少なく、田を作るに

モノ・コトはたくさんあり、いずれも宝物です。ローマでの認定式に参加し、これからも農業を継続していくことの責任を一層感じました。

それでは、私たち女性は何をすべきでしょうか。第一に伝統的食文化を後世に残したいと思えます。大崎地域は東北一の大豆産地で、地元の料理は、みそや納豆はもとより、しそ巻き、凍み豆腐、鉄火豆などがあります。三月に大豆料理を持ちよる試食会をしましたが、若い人の新たな発想にも触れ、大豆料理の可能性を実感しました。

たくさんの方に大崎地域に来ていただき、感動していただけるよう、そして「大地の芸術家」になれるよう頑張ります。



FAO本部での認定式に参加した宮城県・大崎地域の関係者ら＝4月19日、イタリア・ローマで

※この連載は、NPO法人JKSKによる『結結プロジェクト』の協力を得ています。